

愛媛県立中央病院東洋医学研究所活動報告

所長	光藤英彦
部長	山岡傳一郎
専攻医	若松貴哉
鍼灸部	村山功
	上郷樹夫
	玉井弘文
	山見宝
	真鍋昭生
研修鍼灸師	古野史花(3年目)
	椎谷美保(2年目)
	山下真幸(4月から)
	大宮由起子(4月から)
	松浦正典(4月から)
	岡村由希香(4月から)
研修医師	なし
薬局	梶川康子(3月転出)
	赤崎達子
	山口裕子(4月から)
看護部	福岡文子
	武智久美子
事務	石丸真理
	佐々木鈴花

1. 研究所概要と診療状況

愛媛県立中央病院東洋医学研究所は1979年(昭和54年)開設以来、昨年(2004年)で節目の25年目を迎えた。四半世紀にわたり東洋医学、とりわけ灸療の普及に力を入れてきたが、山あり谷ありの四半世紀であった。昨年は台風の日本上陸新記録や中越地震など自然災害が多発した年でもあった。また世界規模でみても、年末にはインド洋スマトラ沖の大地震に続いて大津波などで多数の人々が亡くなり、地球規模でも大変な一年であった。東洋医学関係では、昨年12月15日に混合診療問題について政府内合意が成立したというニュースが報道されたが、私共がこれからどのように関わっていくのか、またどのように発展させられるのか関心を持っていきたい。このことに関して当研究所の光藤所長のコメントが日東医協誌に掲載される予定であるのでご参照願いたい。

年末のあるニュースによると昨年は『災』という漢字一字で現すそうであるが、今年は『災い転じて福と成す』ことができるように、また東洋医学が明るい地域社会構築の一助になるよう研究所所員一同、研究や診療活動に全力を尽くしていきたい。

以下に、2004年度(1月～12月)の業績と活動

内容を報告する。

①東洋医学研究所における診療について

私共の研究所は開所以来一貫して灸療主体の診療を又1988年以後は時系列ケアシステムに基づく診療を続けてきた。過去20年は少しずつではあるが徐々に受診者数も増加傾向を続けていたが、ここ数年の受診者数は年間延べ18000人前後、新患者数も600人前後と横這い状態が続いている。現在、医師3名をスーパーバイザーとするオーディット体制のもと、鍼灸師5名を統括し、それぞれ漢方担当・鍼灸担当として2人担当制で診療に当たっている。また看護師2名、薬剤師2名の診療スタッフがそれぞれの見地、立場からチーム医療としてのQOL志向の統合医療を支えている。また「お灸文化」を21世紀以降へ残し発展させるための土台として、ボランティア施灸コーナーの開設や、地域社会における灸療ボランティアの支援を図る教室(初級、中級・上級)を開催している。

②東洋医学研修事業について

東洋医学に関する研修事業は、本来的には、医師、鍼灸師、薬剤師、看護婦、受付、一般の6部門においてそれぞれ必要性があると考えられる。私共のところでは、医師と鍼灸部門及び一般部門での研修が始まっているが、将来的は上記6部門のすべての研修事業を試みる予定である。

医師部門では、平成5年度より東洋医学専攻研修医制度を設け、すでに専門的な臨床経験を積んだ専攻医が、毎年1名ずつ統合医学としての東洋医術(鍼灸・湯液両方)の研修を行っている。今までに4名の専攻医が育っている。将来東洋医学を専攻することを目的として全科的なローテイト研修を始めた新卒研修医が育ちつつある。また将来的には全国公募の研修医制度を実施することが期待されている。

鍼灸部門では、平成9年4月より鍼灸技術研修プログラムを開始した。この研修は、主に次の5つを目的としている。

- (1) 高齢社会における『お灸によるケア』の指導者としての技量の養成
- (2) 全人的病人把握法としての問診法(時系列分析法)のマスター
- (3) 鍼灸・漢方を含む東洋医学全般の学習
- (4) 現代医学の基礎学習と実施研修
- (5) 現代医療のチーム医療の中でのメディカルスタッフの一員としての臨床的鍼灸実践

今年で8年目を迎えた事業であるが、今までに10名の研修鍼灸師が研修を終え社会に飛び立っていった。平成16年度は全国各地から4名の研修生を迎え入れ、2年目・3年目の研修生と合わせて6名の研修生が日々臨床実習と多方面の学習に日々励んでいる。また西海町国保健康づくり推進事業として、平成8年度から5年間、国（厚生省）と町（西海町）の協力によって実施された灸療普及技術支援活動で協力を得た、福浦診療所の大川医師のもとでの、より実践に即した短期臨床研修も計画している。研修生はこれまでは関西鍼灸短期大学や明治鍼灸大学の卒業生が主であったが、平成12年度から専門学校卒業生も対象とした体制を取っている。平成17年度も若干名の研修生を受け入れる予定で、今後も鍼灸技術研修事業は継続するつもりである。

看護部門に関しては、所長光藤が平成10年秋から愛媛県立医療短期大学（平成16年度から4年制に移行）の看護部門での講義を担当している。今後の看護部門における東洋医学的研修の礎が築かれるのではないだろうか。

なお愛媛大学医学部からの要請で光藤はH16年度から愛大医学部学生に対して特別講義を担当することになり、今後も毎年引き続き講義を担当する予定である。テーマは「混合診療から総合診療に向う一歩と古代医術の復元」（先端医学分野）となっている。

③灸療ボランティア活動について

東洋医学研究所は開所以来、一貫して灸療を中心とした診療を続けてきた。四国地方は昔からお灸が盛んな土地柄で、県民にもなじみ深い療法として知られている。しかし近年、核家族化が進み一人暮らしのお年寄りや高齢者だけの家庭が増え、自宅で背中にお灸のできない人が目立ち始め、研究所の診療システムになじまない人が多く見かけられるようになった。そこで、背部灸のできない人たちに灸療の良さを理解してもらい、その普及と鍼灸師の研修を兼ねる目的で、平成13年3月より、スタッフ鍼灸師の指導下での研修鍼灸師による灸療ボランティアサービスの提供を以下の要領で開始した。

(1) 対象者は東医研通院患者とし、通常の診療日以外に実施する（通常の再診と区別するため）。

(2) 灸療ボランティア活動は午後のみとし、研修鍼灸師が担当する。

(3) 灸療は背部灸療を中心とし、できるだけ自己灸療・家族灸療へ指導・誘導する。

2001年（平成13年）3月から12月までの延利用者総数は317名、月平均では32名、2002年度

では、延668名、月平均56名、2003年度では、延1751名、月平均146名にのぼった。2004年度にはついに延2643名、月平均220名に達し、最近では施灸人員を確保するのが難しい状況になってきたが、「お灸文化」の存続・継承の牽引車として今後も引き続き行っていくつもりである。

④灸療ボランティア支援教室の開催について

前項③の「灸療ボランティア活動」に対して希望者が増加してきており、職員や研修生だけでは限界にきていて、家庭でお灸をすえたいという人を支援する「灸療ボランティア支援教室」を平成15年4月（毎年4回）から開始した。これは平成13年3月より所内にて開始した施灸ボランティア活動の延長線上と考え、地域社会において標準的な灸療の教養を身につけたボランティアの活動を支援することを目的とした教室である。対象者はえひめ東医研の患者のみならず、県立中央病院の患者・職員とその家族を中心に施灸ボランティアに関心のある人とした。講習内容はⅠ初級、Ⅱ中級、Ⅲ上級の3つに分かれており、初年度（平成15年）はⅠの初級入門講座を4回（4月、7月、10月、1月）実施した。講座内容として、健康灸のススメ・日常施灸の注意事項・標準的な施灸をするコツ・灸療の意義や適応症・その他灸療に関するノウハウなどを取り上げた。またH16年度からはⅡの中級教養講座として、基本灸療学習コースの他に生薬学習コースも加えた講座内容で開始した（年4回）。H17年度からは上級専門講座も開催する予定にしている。この支援活動が地域社会における施灸ボランティアの拡大につながっていくことを期待したい。

⑤東洋医学啓蒙活動について

愛媛県内の各市町村だけでなく他の府県からの東洋医学全般の講演・健康まつりなどの実施依頼に対して、灸療による健康作りや講演会の開催及び灸療実技などを中心として、東洋医学の啓蒙活動に努めてきた。愛媛新聞カルチャースクールや、単発的な講演会などは以前からあったが、高齢化社会を迎えて東洋医学の需要が増大していくと予想され、これからは定期的な継続事業として力を注ぐつもりである。東洋医学にとって鍼灸と漢方が車の両輪に例えられるように、鍼灸だけでなく漢方薬の啓蒙にも力を注いでいきたい。

2. 学会報告

1) 若松貴哉：頭痛に対する東洋医学的治療。日本東洋医学会中四国支部第30回愛媛県部会、松山市男女共同参画推進センター（コムズ）、

- 松山市, 2004. 3. 13
- 2) 若松貴哉, 光藤英彦: 虚証女性患者にみられた上部督脈上細絡への考察. 第 55 回日本東洋医学会学術総会, パシフィコ横浜会議センター, 横浜市, 2004. 6. 26
 - 3) 玉井弘文: 20 年来の鼻炎 (真珠腫手術後) に灸療が奏功した 56 才男性例. 日本東洋医学会中四国支部第 31 回愛媛県部会, 松山市男女共同参画推進センター (コムズ), 松山市, 2004. 9. 12
 - 4) 山岡傳一郎: 総合診療部内科で経験した吃逆症例. 日本東洋医学会中四国支部第 31 回愛媛県部会, 松山市男女共同参画推進センター (コムズ), 松山市, 2004. 9. 12
 - 5) 山見 宝, 松浦正典, 光藤英彦: QOL の向上に寄与したと思われる一症例. 日本東洋医学会中四国支部第 31 回愛媛県部会, 松山市男女共同参画推進センター (コムズ), 松山市, 2004. 9. 12
 - 6) 松浦正典, 山見 宝, 光藤英彦: 発症誘因が父母の死去と自身の心疾患と推測される健康障害に対して, 神道穴施灸等が有効であった症例. 日本東洋医学会中四国支部第 31 回愛媛県部会, 松山市男女共同参画推進センター (コムズ), 松山市, 2004. 9. 12
 - 7) 上郷樹夫: RA 反応穴に典型的な所見 (陥下, 圧痛) が認められた RA の一事例. 日本東洋医学会中四国支部第 31 回愛媛県部会, 松山市男女共同参画推進センター (コムズ), 松山市, 2004. 9. 12
 - 8) 若松貴哉, 光藤英彦: 虚証女性患者にみられた上部督脈上細絡への考察. 日本東洋医学会中四国支部第 31 回愛媛県部会, 松山市男女共同参画推進センター (コムズ), 松山市, 2004. 9. 12
 - 9) 村山 功, 山岡傳一郎: リウマチ様関節炎症状を訴える 48 才女性例. 日本東洋医学会中四国支部第 31 回愛媛県部会, 松山市男女共同参画推進センター (コムズ), 松山市, 2004. 9. 12
 - 10) 村山 功, 山岡傳一郎: リウマチ様関節炎症状に対して東洋医術を運用した一事例. 第 42 回愛媛県立病院学会, 今治市中央住民センター, 愛媛県今治市, 2004. 11. 20
 - 11) 上郷樹夫, 山岡傳一郎: 関節リウマチに対して鍼灸, 漢方の治療により奏功したと思われる一事例. 第 42 回愛媛県立病院学会, 今治市中央住民センター, 愛媛県今治市, 2004. 11. 20
 - 12) 古野史花, 山岡傳一郎, 光藤英彦: 手の井穴主治症の検討～代田文誌, 深谷伊三郎の臨床に照らして～. 第 12 回日本鍼灸史学会学術大会, 京都府中小企業会館, 京都市, 2004. 11. 27
 - 13) 山見 宝, 松浦正典, 光藤英彦: 神道穴における復元主治条文の臨床的検討. 第 12 回日本鍼灸史学会学術大会, 京都府中小企業会館, 京都市, 2004. 11. 27
- ### 3. その他の報告, 講演等
- 1) 山岡傳一郎: 漢方処方のやさしい使い方～漢方薬の特徴・使用する際の心がけなど～. 研修指導医のための漢方セミナー, 岡山県医師会館, 岡山市, 2004. 7. 3
 - 2) 光藤英彦: 統合医療の視野としての時系列分析. 愛媛大学医学部学生対象 (3 回生) 〈特別講座〉, 愛媛大学医学部講堂, 松山市, 2004. 7. 21
 - 3) 光藤英彦: 愛媛東医研の歴史的沿革と灸療普及活動について. 全鍼師会全国大会愛媛大会 in 道後 〈特別講演〉, 松山市道後プリンスホテル, 松山市, 2004. 7. 25
 - 4) 玉井弘文: 東洋医学と健康. 女性学級健康講座, 石井公民館, 松山市, 2004. 9. 16
 - 5) 玉井弘文: 東洋医学と健康. 女性教室健康講座, 浮穴公民館, 松山市, 2004. 10. 1
 - 6) 山岡傳一郎: 伝統的な心と体の癒し方. 岐阜県県民健康医学講座, 岐阜県下呂温泉会館, 岐阜県下呂市, 2004. 10. 3
 - 7) 真鍋昭生: 刺絡学概論について. 大阪刺絡講習会, 森ノ宮医療専門学校, 大阪市, 2004. 10. 10
 - 8) 山岡傳一郎: 漢方薬の運用とその実際. 薬剤師のための漢方医学研修会, 愛媛県薬剤師会館, 松山市, 2004. 10. 17
 - 9) 玉井弘文: 東洋医学と健康. ケアセミナー, JA 余戸幸福荘, 松山市, 2004. 10. 28
 - 10) 玉井弘文: 東洋医学と健康. 道後・湯築地区福祉講座, にぎたつ会館, 松山市, 2004. 11. 2
 - 11) 真鍋昭生: 東洋医学と健康. 愛媛県高齢者大学校講演, 愛媛県長寿社会振興センター, 松山市, 2004. 11. 9
 - 12) 光藤英彦: 統合医療の視野としての時系列分析. 愛媛大学医学部学生対象 (4 回生) 〈特別講座〉, 愛媛大学医学部講堂, 松山市, 2004. 11. 9
 - 13) 山見 宝: 東洋医学と健康. 愛媛県高齢者大学校講演, 愛媛県長寿社会振興センター, 松山市, 2004. 11. 16
 - 14) 山岡傳一郎: メンタルヘルスについて. メン

タルヘルス等に関する指導者研修第3回「東洋医学コース」，愛媛県健康増進センター，松山市，2004. 11. 19

- 15) 玉井弘文：東洋医学と健康. 女性学級健康福祉講座，荏原公民館，松山市，2004. 11. 30